

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	C型肝炎	J Infect Dis. 209(201)1205-1211	C型肝炎ウイルス(HCV)の感染性に関する報告。血漿にHCVレポーターウイルスを加えた後、4°C、22°C、37°Cで6週間保存後のウイルスの感染性を測定した結果、4°C及び22°Cで6週間保存後の検体でウイルス感染性が確認された。汚染源や医療器具を介した感染の可能性を支持する結果と考えられた。
2	C型肝炎	ProMED-mail 20140324.2351428	インドにおける献血を介したC型肝炎ウイルス(HCV)感染の報告。カンミール地方の血友病患者34例が、新鮮凍結血漿の輸血によりHCVに感染した。主な原因として、適切な血液スクリーニング検査が実施されていないことが挙げられている。
3	C型肝炎	Scand J Infect Dis. 10(2013)796-799	スウェーデンにおける輸血を介したC型肝炎ウイルス(HCV)感染の報告。2012年8月、男児(9日齢)が大血管転移に対する手術を施行され、術中、赤血球濃厚液の輸血を受けた。輸血後29日目にPCR検査を実施した結果、2例中1例のドナーの血漿からHCV RNAが検出された。輸血後35日目、レシピエントである男児のサンプルを検査した結果、HCV RNAが検出された。ドナーは献血2、3週間前に偶発的針穿刺による傷を受けていた。
4	E型肝炎	AABB Annual Meeting & CTTXPO 2013. SP405	フランスにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)の報告。2012年、異なる2ロットの有機溶媒/界面活性剤(SD)処理された血漿を輸血された患者2例でHEV感染が報告された。供血者のHEVの遺伝子配列は患者のHEVと一致した。
5	E型肝炎	Blood. 123(2014)796-797	フランスにおけるE型肝炎の報告。Intercept blood system(DNA及びRNAの複製を阻害するためにソラレン化合物であるアモトサレン処理とUVA照射による血液製剤の病原体不活化法)で処理した血漿製剤の輸血によるE型肝炎感染が2例報告された。Intercept病原体不活化技術に対するE型肝炎ウイルスの抵抗性が示された。
6	E型肝炎	Clin Infect Dis. 57(2013)1369-1370	バングラディッシュにおけるギラン・バレー症候群(GBS)患者のE型肝炎の報告。ダッカの病院において、GBS患者100例におけるE型肝炎ウイルス(HEV) IgM及びIgG抗体陽性率を調査したところ、対象群200例に比べて、GBS患者群においてHEV IgM抗体陽性率は有意に高くGBSとHEV感染の関連が示された。
7	E型肝炎	J Hepatol. 60(2014)S287	スペインにおけるE型肝炎の報告。豚肉摂取後に急性E型肝炎を発症し、リバビリンの治療を受けた患者について追跡調査を行った。リバビリン投与後、患者血清中のE型肝炎ウイルス(HEV)量は経時的に減少し、15日目および49日目には陰性となった。投与3日目には、HEVの一時的な変異性の増加が認められ、リバビリンの変異原性が示唆された。
8	E型肝炎	J Med Virol. 86(2014) 478-783	イギリスにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)とサイトメガロウイルス(CMV)、エプスタインバーウイルス(EBV)との交差反応に関する報告。ロンドンの三次医療機関において3年間のHEV血清学的検査の後方視点的分析が行われ、HEV-IgM抗体とCMV-IgM抗体、EBV-IgM抗体の交差反応性が示された。
9	E型肝炎	Lancet. 383(2014)218	西ヨーロッパにおけるE型肝炎の報告。スウェーデン及びドイツでは、それぞれ1/7986及び1/4524の血漿供血者がE型肝炎ウイルス(HEV) RNA陽性であることが報告された。また、ドイツの血漿分画製剤のプール血漿のうち10%がHEV RNA陽性であった。2012年以降、フランスの2ヶ所の医療機関において、輸血を介した慢性E型肝炎が5例報告された。近年、免疫不全患者において、慢性E型肝炎が報告されており、潜在的供血者である一般集団のE型肝炎罹患率や免疫不全状態患者におけるE型肝炎症状の重篤性を考慮すると、血液製剤における体系的なHEVスクリーニング(核酸検査)が必要であると考えられた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
10	E型肝炎	Trop Anim Health Prod. 2014 Feb; 46(2):399-404	ブラジルにおけるブタのE型肝炎ウイルス(HEV)の報告。ブラジルの家族規模の農場におけるブタの小腸サンプルからHEVが検出された。
11	E型肝炎	www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Scientific_guideline/2014/05/WC500166018.pdf/2014/5/2	欧州医薬品庁により公表された血漿由来医薬品のE型肝炎ウイルス(HEV)の安全性に関するコンセプトペーパーの案。医薬品製造の出発原料として使用されるプール血漿がHEVで汚染されていることを示す事例が報告されるなど、血漿由来医薬品の安全性について懸念がある。この問題に対処するためワークショップが組織され、そこで検討される事項について提案がなされた。
12	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2012-2013 Influenza season Week 37 ending September 14, 2013	アメリカにおけるインフルエンザA(H1N1)変異型(以下、H1N1v)感染に関する報告。2013年第37週に、アーカンソー州でH1N1v感染症例2例が報告された。2013年夏には18例のインフルエンザA(H2N2)変異型感染症例が報告されており、計20例となった。死亡例の報告はない。ヒト-ヒト感染は認められず、20例すべてが発症前週にブタと濃厚接触していた。
13	インフルエンザ	CDC Morbidity and Mortality Weekly Report(MMWR) (Update: Influenza Activity-United States, Sep 29-Dec 7, 2013)	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染等の報告。2013年10月、2013-2014年シーズン(2013年9月29日開始)における初めてのH3N2v感染1例がアイオワ州から米国疾病予防管理センターに報告された。症例は発症前にブタとの接触が認められている。その他、2013年9月29日~12月7日のインフルエンザ活動性に関する概要について記載。
14	インフルエンザ	Euro surveillance 18(2013)1-4	台湾における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。2013年4月24日、台湾では1例目となるH7N9感染症例が確認された。症例は4月9日に中国本土から台湾へ戻った男性であり、4月12日に呼吸器症状を伴わない発熱及び倦怠感を呈し、その後、間質性肺炎が現れ、肺硬化、呼吸不全へと進行した。4月21日に台湾CDCへ報告され、RT-PCR検査により感染が確定した。
15	インフルエンザ	ProMED-mail 20140505.2451125	中国における鳥インフルエンザA(H5N6)型(以下、H5N6)感染の報告。四川省南充市において重度急性肺炎を患っていた男性が死亡し、H5N6核酸陽性であることが判明した。この男性は病気で死亡した家禽との接触があった。
16	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20140207.2262302	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染に関する報告。中国保健当局は、2014年2月5日、新たに10例のH7N9感染症例の報告を受けた。2月5日までに中国本土で報告されたH7N9感染症例は計302例であり、内訳は、浙江省から122例、広東省から54例、上海から41例等である。
17	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 201420140214.2277024	中国における新型の鳥インフルエンザA(H10N8)型(以下、H10N8)のヒト感染症例に関する報告。2014年2月13日、江西省保健当局はH10N8感染症例を1例新たに確認したことを公表した。症例は75歳の男性であり、2月4日に発症して入院し、2月8日に死亡した。また、H10N8のヒト感染症例はこれで3例目である。
18	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20140205.2257103	中国における鳥インフルエンザA(H10N8)型(以下、H10N8)感染の報告。これまでに3例が感染し、2例が死亡している。1例目は、Jiangxi provinceにおいて2013年11月30日に発症し、12月6日に死亡した。患者は市場で生きた鳥に接触した可能性があった。2例目はJiangxi provinceのNanchang市において2014年1月8日に発症した。患者は市場への出入りの経験があった。3例目はJiangxi provinceのNanchang市において2014年2月4日に発症し2月8日に死亡した。患者が鳥に接触していたかについては情報が無い。世界保健機関は、現時点の疫学的情報から考えて、散発的な感染であると考えられると報告している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
19	鳥インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/EN_GIP_20140124CumulativeNumberH5N1cases.pdf	鳥インフルエンザA(H5N1)型のヒト感染の発生状況に関する報告。WHOは、2003年から2014年までの鳥インフルエンザの感染例数及び死亡者数の統計を公表した。2014年1月24日時点の集計では、2014年1月1日以降、ベトナムにおいて症例1例(死亡1例)が報告された。
20	エボラ出血熱	MMWR. 63(2014)548-551	ギニアにおけるエボラウイルス感染の報告。2014年3月21日にギニアの保健当局は49名のエボラウイルス感染症のアウトブレイクを報告した。パストゥール研究所で検査された20例のうち、15例がPCRによりエボラウイルス陽性とされ、ウイルスシーケンスによりザイールエボラウイルスが特定された。
21	エボラ出血熱	ProMED-mail 20140417.2409996	ギニアで発見されたエボラウイルスに関する報告。科学者によると、2014年にギニアで多数の死者を出しているエボラウイルスは他のアフリカ諸国のアウトブレイクから流入したものではなく、新規株であると考えられている。現時点において、ウイルスの発生源は不明である。
22	エボラ出血熱	ProMED-mail20140403.2379386	西アフリカにおける初めてのエボラウイルス疾患(EVD)の報告。西アフリカにけるEVDのアウトブレイクはザイールエボラウイルスと非常に近い相同性(98%)を持つ株に起因することが確定されている。初症例はギニア南東部の森林地域から報告された。アウトブレイクは急速に拡大し、ギニアの複数の地域においてEVD感染例と死亡例が報告されている。近隣諸国から感染疑い例と死亡例が報告され、患者は全てギニアへの渡航歴があった。ギニア保健省は2014年4月1日現在、EVD症例患者は127症例で、うち検査確定症例は35例、83例は死亡したと報告している(致死率65%)。
23	エボラ出血熱	WHO GAR Disease Outbreak News May 15, 2014	ギニアにおけるエボラ出血熱の報告。ギニア保健当局は、2014年5月12日時点の集計として、エボラウイルス感染症例として248例を確認し、うち171例が死亡したことを公表した。
24	コンゴ・クリミア出血熱	J Infect Dis. 67(2014) 137-138	トルコにおけるコンゴ・クリミア出血熱(CCHF)の報告。2008年6月、トルコの中央アナトリア地方で畜産業に従事する男性患者がCCHF感染により入院した。治療により生化学検査及び血球数は正常範囲となり退院したが、退院後に男性患者と性交渉をもった妻でのCCHF感染が確認された。これは、回復期患者との性的接触を介したCCHF感染の可能性が示唆される初の報告である。
25	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20130827.1906334	ロシアにおけるコンゴ・クリミア出血熱(CCHF)の報告。2013年、ロストフ州内では38例のCCHF症例が報告された。Peschanokopsky地区及びKagalnitsky地区の各1例がCCHFにより死亡した。ロストフ州内では17の地域でCCHFが報告されている。
26	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20131109.2047316	パキスタンにおけるコンゴ・クリミア出血熱(CCHF)の報告。2013年11月7日、Punjab州LahoreにおいてCCHFによる死者1例が確認された。これで同州におけるCCHFによる死亡者は計3例となった。
27	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20131204.2092523	インドにおけるコンゴ・クリミア出血熱の報告。インドのグジャラート州において、コンゴ・クリミア出血熱のアウトブレイクの規模が拡大している。3年間でコンゴ・クリミア出血熱に感染した患者が30例報告され、14例が死亡した。感染の約半数はBharwadと呼ばれる羊飼いの集団において発生している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
28	狂犬病	OIE Weekly Information 2013.11.28	ギリシアにおける狂犬病の報告。ギリシアのKentriki Makedonia、Kilkis、Myriofytoの農場において狂犬病のアウトブレイクが確認された。ウシにおける感染例2例、死亡例2例、処分例2例、疑い例60例が報告されている。感染源は野生種との接触と考えられている。
29	狂犬病	ProMED-mail 20131226-	インドにおける狂犬病の報告。2013年12月13日、Maharashtra州Pune市において27歳男性が狂犬病により死亡した。Pune市での狂犬病による死者はこれで15例目となった。症例は5ヶ月前にイヌの咬傷を負い、その後狂犬病ワクチンを接種されたが、抗狂犬病免疫グロブリン製剤は投与されなかった。Pune市ではイヌによる咬傷事件は毎月1000件ほど発生しており、2013年1月から11月までに計12,319件が発生した。
30	狂犬病	Weekly Disease Information Apr 3. 2014	ウルグアイにおける狂犬病の報告。2014年3月5日にウルグアイの農場において狂犬病のアウトブレイクが発生した。ブタにおける感染疑い例5例で、感染源は野生種との接触である。
31	チクングニヤウイルス感染	Global Alert and Response 2013.12.10	2013年12月6日、カリブ海のセント・マーチン島北部フランス領(サン・マルタン島)において、チクングニヤ熱地元感染が2例確認された。南北アメリカ地域における初めての地元感染症例であった。2013年12月10日時点で、2例がチクングニヤ熱確定症例、4例が可能性の高い症例、20例が疑い例であった。
32	チクングニヤウイルス感染	Lancet. 383(2014)514	西インド諸島におけるチクングニヤ感染の報告。2013年12月5日、仏領インド諸島のサン・マルタン島において土着性チクングニヤ感染症例が確認され、12月20日にはマルティニーク島で約50例の確定症例が報告された。2014年1月にはグアドルサープ、サン・バルテルミー、ドミニカ、英領ヴァージン諸島でも土着症例が確認された。ウイルス血症患者2例におけるウイルスRNAを配列決定した結果、東南アジアで1950年代に同定されたアジアタイプに属していることが確認された。系統発生的には、近年アジアで確認された株と関連しており、その多くにおいてNSP3遺伝子の4アミノ酸が欠損している。最近ニューカレドニアにおいて蔓延していたアジア株とはNSP3遺伝子におけるアミノ酸変異部位が異なり、遠縁であった。
33	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail 20140310.2323168	フランス領ギアナにおけるチクングニヤ熱疑い例の報告。南北アメリカ大陸における初めての地元感染症例である。2013年12月のセント・マーチン島でのチクングニヤ熱確定症例以降、いくつかの島とフランス領ギアナで8,000例近い疑い例と3例の死亡例が報告されている。
34	デング熱	Euro Surveill. 18(2013)20661	フランスにおける土着性デング熱の報告。2013年10月、ヒトスジシマカ(Aedes Albopictus)の生息地である南フランスのブーシュ・デュ・ローヌ県で、50歳代女性検査技師がデング熱と診断された。患者は発症15日前からその地域を出ていないことや、職業感染の可能性が除外されたことから、当該地域の昆虫媒介の可能性が高い。これは、2010年にアルプ・マリタイム県で発生した2例に続く、フランス本土における2番目の土着性デング熱症例の可能性がある。
35	デング熱	ProMED-mail 20131216.2118900	インドにおけるデング熱の報告。2013年11月までに確認されたインド国内のデング熱症例数は67,365例であり、うち152例が死亡した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
36	デング熱	ProMED-mail 20131230.2143621	パキスタンにおけるデング熱の報告。2013年12月27日までに報告されたデング熱患者は5,000例であり、うち32例が死亡している。保健当局の担当者によると、報告されていない症例が多くあるとされ、少なくとも15,000例の患者が存在すると考えられている。
37	デング熱	ProMED-mail 20140109.2162194	日本から帰国したドイツ人旅行者におけるデング熱発症の報告。2013年9月9日、2週間の日本旅行から帰国した51歳ドイツ人女性の血清サンプルにおいて、デングウイルスIgM抗体、IgG抗体、NS1抗原がすべて陽性であったことから急性デングウイルス感染が示唆された。患者は笛吹市においてブドウ狩りをした際、複数箇所蚊に刺されたことを申告している。患者の行動やデングウイルスの潜伏期間を考慮すると、日本で感染した可能性が高いと考えられた。
38	フラビウイルス検査陽性	第61回日本ウイルス学会学術集会 (2013.11.10-13)	フィリピンにおけるカニクイザルのデングウイルス(DENV)感染状況に関する報告。フィリピンの飼育繁殖施設のカニクイザル100頭(新たに導入した野生由来のサル20頭、すでに飼育され繁殖に用いられている野生由来のサル60頭、繁殖飼育されたサル20頭)の血漿検体に対して、DENV抗体検査としてIgG、IgM補足ELISAを行った結果、35検体が陽性であった。陽性検体について、ブロークリダクション中和試験、RT-PCRによりウイルス検出を行い系統解析したところ、DENV-2型の遺伝子配列であることが明らかとなり、2010年にアジアで分離された株と近似のものであり、非ヒト霊長類から分離された森林型DENV株とは異なることがわかった。
39	口蹄疫	Oie http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?page_refer=MapFullEventReport&reportid=14132	ロシアにおけるブタの口蹄疫の報告。2013年9月14日に中国国境に近いロシアのザバイカリエ地方において、ブタの口蹄疫(血清型A)のアウトブレイクが発生した。ブタにおける口蹄疫感染疑い例は209例で、感染源は不明又は結論に達していない。
40	口蹄疫	Oie http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?page_refer=MapFullEventReport&reportid=14807	北朝鮮におけるブタの口蹄疫の報告。2014年1月8日に北朝鮮の平壤において、ブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおける口蹄疫感染疑い例は25,869例、感染例1,834例、死亡277例、処分3,668例で、感染源は不明又は結論に達していない。
41	ヒトポリオーマウイルス感染	ProMED-mail 20140203.2252063	アフガニスタン及びパキスタンにおけるポリオ感染の報告。世界ポリオ撲滅イニシアティブの報告によると、2014年1月1日から1月29日までに、アフガニスタンでは野生型ポリオ(WPV1)の感染1例が報告されたが、循環型ワクチン株由来ポリオ(cVDPV2)の感染は報告されなかった。また、同じ期間中、パキスタンではWPV1感染5例及びcVDPV2感染1例が報告された。
42	オルソポックスウイルス感染	CID RAP, 2014; May 21	グルジアにおける新種のオルソポックスウイルスの報告。米国CDCによると、2013年夏に天然痘ワクチン接種歴のない2例の牛飼いが、病気のウシとの接触後に新種のオルソポックスウイルス科のウイルスに感染した。CDCがこれらの牛飼いとウシと接触のあった55例に聞き取り調査を行ったところ、天然痘ワクチンの定期接種が中止された1980年以降に生まれた9例のうち5例にオルソポックスウイルスの抗体が確認された。さらに、グルジア国内の他の地域でも、2010年に炭疽感染の疑いとされていた別の1例における感染が確認された。患者らは感染から回復している。CDCは同ウイルスによる感染が新興する可能性があるため、動物との接触後に生じた皮膚病変のある患者では感染を考慮すべきとしている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
43	オルソポックスウイルス感染	ProMED-mail 20140502.8445865	グルジアにおける新種のオルソポックスウイルスによる初のヒト感染例の報告。米国CDCによると、2013年夏に天然痘ワクチンを接種歴のない2例の牛飼いが、オルソポックスウイルス曝露歴がある乳牛との接触後に新種のオルソポックスウイルスに感染した。さらに、グルジア国内の他の地域でも、2010年に炭疽感染の疑いとされていた別の1例における感染が確認された。患者らは感染から回復している。ポックスウイルス科の天然痘以外のウイルスは一般的にウシ、ネコ、サルなどの動物に感染し、偶発的にヒトに感染することもあるが今回認められた新種のウイルスのヒトからヒトへの感染はまだ確認されていない。
44	サイトメガロウイルス感染	J Clin Virol. 59(2014)259-263	ドイツにおける生後2ヶ月の満期産男児のサイトメガロウイルス (CMV) 感染の報告。出生時の血液検体はCMV陰性であり、帝王切開での出産であったため先天性感染、経産道感染の可能性は否定された。母乳の細胞成分及び無脂肪乳清からCMV-DNAが検出され、母乳、男児の直腸生検、尿及び咽頭スワブにおけるウイルス株N末端CMV gO遺伝子領域の配列が100%の同一性を示し、CMV感染源が母乳であると考えられた。男児は、広範な直腸狭窄を伴う重症CMV腸炎を認めたが、薬物治療により回復した。
45	アルボウイルス感染	ProMED-mail 20140411.2397091	フランスポリネシア領におけるジカウイルス (ZIKV) 感染の報告。フランスポリネシア領で2013年からZIKVの流行があり、輸血によるZIKVの伝播を防止するため、核酸増幅検査を行ったところ、2013年11月～2014年2月における供血時に無症候の供血者1,505例中42例(3%)が陽性であった。
46	フラビウイルス感染	J Euro Surveill. 19(2014)1-4	ヨーロッパにおけるジカウイルス (ZIKV) 感染症の報告。2013年11月22日、50歳代前半のドイツ人男性がタイ旅行から帰国後、デング熱様症状を呈し、血液からZIKV-IgM抗体、IgG抗体、ZIKV特異的中和抗体が検出され、ZIKV感染症が確認された。
47	熱性感染症	CDCホームページ 2013.11.21	フランス領ポリネシア保健省は、タヒチおよびその他のいくつかの島でのジカ熱のアウトブレイクを確認した。疑い例が数百症例存在する。入院や死亡は確認されていない。
48	熱性感染症	ProMED-Mail 20131129.2082225	フランス領ポリネシアでのアウトブレイクに続き、ニューカレドニアで2例のジカ熱症例が報告された。ジカ熱はウガンダの65歳の患者に端を発する疾患で、アフリカ、アジアで広く存在し2007年にはミクロネシアのヤップ島でのアウトブレイクが報告されている。これまでに100万人以上が発症している。
49	ワクシニアウイルス感染	Emerg Infect Dis. 19(2013)2017-2020	ブラジルにおけるワクシニアウイルスの報告。2010年7月、ブラジルのアマゾン地域に位置するパラ州において、乳牛44頭と酪農従事者3人が重症発疹性のワクシニアウイルスに感染した。感染したウシの痂皮及びウシとヒトの血清サンプルからウイルスを分離し系統発生解析を行ったところ、1963年にパラ州のげっ歯類から分離されたウイルス株及び南米で使用された天然痘ワクチンウイルス株とは異なる株であることが明らかとなり、パラ州における新規ワクシニアウイルスの定着が示された。
50	コロナウイルス感染	JAVMA News August 15 2013	米国におけるコロナウイルスによるブタ流行性下痢 (PED) の報告。2013年6月初旬、全米養豚獣医師協会 (AASV) により、米国の16の州においてPEDの原因となるコロナウイルスが発見されたとの報告があった。米国当局ではAASVの調査データの分析、疫学的情報の収集を進めているが、6月初旬時点では結論に至っていない。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
51	ウイルス感染	Nature. 503(2013)535-538	中国におけるSARS様コロナウイルス (SL-CoV) の報告。中国雲南省のキクガシラコウモリから分離された2種類の新規コウモリコロナウイルス (CoV) は、スパイクたんぱく質の受容体結合ドメインにおいて、既知のコウモリCoVと比較しSARS-CoVとの近縁性が高いことが示された。さらに、糞便サンプルから、アンジオテンシン II 変換酵素受容体を介して細胞侵入するコウモリSL-CoVを分離することに初めて成功した。これらの結果から、一部のコウモリSL-CoVのヒト感染には中間宿主が必要ではないことが示唆された。
52	ウイルス感染	ProMED-mail 20131219.2126531	MRSAコロナウイルスの複製能力に関する報告。MRSAコロナウイルスはヤギ、ラクダ由来の細胞で複製をした。このことからこれらの動物はMRSAコロナウイルスの中間宿主となる可能性が示唆された。
53	ウイルス感染	CDC Letter June 2014	中国におけるラットの新規ヘニパ様ウイルスの報告。2012年6月、中国雲南省Mojiang Hani自治県において、炭鉱で働いていた3例が原因不明の重症肺炎により死亡した。その半年後、著者らはこの洞窟での自然宿主内の新規人獣共通病原体の存在調査のため、坑道でコウモリ (Rhinolophus ferrumequinum) 20匹、ラット (R.flavipectus) 9匹、ジャコウネズミ (Crocidura dracula) 5匹から肛門スワブサンプルを採取した。R.flavipectusラット由来サンプルから、既知のヘニパウイルスの遺伝子に類似したMojiang paramyxovirus (MojV) が検出され、R.flavipectusラットがMojVの自然宿主であることが示された。
54	ウイルス感染	EMA/CHMP/BWP/814 397/2011	欧州医薬品庁から発出された、ヒトの医薬品の製造に用いられるブタトリプシンの使用に関するガイドライン。ブタトリプシンには外来性病原因子混入の危険性があり、出発原材料または適切な中間体におけるウイルス混入の検査は、生物学的製剤にとって重要な安全対策である。出発原材料の管理やウイルス検査には限界があることを考慮すると、二種類の保管するウイルス除去ステップを採用することが推奨される。
55	ウイルス感染	J Clin Virol. 58(2013)722-725	無症候性の献血者174例と受血者であるサラセミア患者22例の2つのコホートの血清について、マルセイユウイルスの感染率をELISA及びPCRを用いて評価した。献血者22/147例 (12.6%) 及びサラセミア患者5/22例 (22.7%) において抗マルセイユウイルスIgGが陽性であり、献血者7/147例 (4%) 及びサラセミア患者2/44例 (9.1%) でマルセイユウイルスが検出された。両コホート間での感染率に有意な差は認められなかったが、サラセミア患者が献血者よりも若い年齢で、抗マルセイユウイルスIgG抗体陽性となることを認めており、頻回の輸血がマルセイユウイルス伝播の危険因子となりうる可能性が示唆された。
56	ウイルス感染	Virology Journal. 2013, 10:341	中国におけるブタのE型肝炎ウイルス (HEV) とブタ繁殖・呼吸障害症候群ウイルス (PRRSV) の同時感染例に関する報告。中国の養豚場で死亡した子豚300例について死亡原因を分析したところ、HEVとPRRSVの同時感染例が1例あり、この症例では深刻な病理的变化が観察された。
57	ウイルス感染	第61回日本ウイルス学会学術集会 (2013.11.10-12)	国立感染症研究所における重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) の血清学的診断法の確立に関する報告。SFTSウイルス (SFTSV) 感染細胞を抗原とした間接傾向抗体法 (IFA) およびIgG-ELISA法により、患者血清中の抗SFTSV抗体が高感度に検出され、感染サーベイランスに有用であると考えられた。SFTSV組換え核蛋白 (rNP) 発現Hela細胞を用いたIFAおよびrNPを抗原としたIgG-ELISA法では、抗SFTSV抗体の検出感度が低く、さらなる検討が必要であると考えられた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
58	クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 14 Feb 2014	潜在的な医原性クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)感染に対して行われた強化監視活動の更新情報。輸血後に変異型CJD(vCJD)を発症したドナーから輸血を受けたレシピエント、輸血後にvCJDを発症した患者に献血したドナー等のモニタリング結果が報告されている。また、最近特定されたヒトプリオン病である可変プロテアーゼ感受性プリオン疾患(VPSPr)に関する概要が報告されている。VPSPrは2008年、米国で最初に報告され、以降、類似症例が他国で確認されている。VPSPr患者には、後天性ヒトプリオン病の特定のリスク因子がなく、プリオンタンパク質遺伝子のコード配列に関連突然変異が認められていない。VPSPrは孤発性CJD(sCJD)と同年齢層の患者が罹患する。臨床的特徴はsCJDより変化に富んでおり、運動異常、認知機能低下、歩行不安定がみられる。臨床症状を呈する期間はsCJDより長く、発症から1年以上生存する。そのため、臨床診断基準を設定することが困難であり、さらなる研究が望まれる。
59	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Annual Meeting & CTTXPO 2013, SP381	伝達性海綿状脳症(TSE)感染マウスの血漿エキソソームから異常プリオン蛋白(PrP)を生化学的に分離した報告。ヒトTSEに感染させた臨床症状を呈するマウスの血漿からエキソソームを分離し、未感染マウスの脳ホモジネートに加え、ウエスタンブロット法でPrP検出を行った。その結果、血漿エキソソームからPrPが検出された。これは血漿エキソソーム中に含まれるPrPを生化学的に検出した初の報告である。
60	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ2013; 347: f5994	英国における変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の調査について。英国において、手術切除後の虫垂及び扁桃腺検体を対象とした調査を実施した結果、扁桃腺の感染はなく、虫垂の感染は2,000~4,000人に1人であった。vCJD発症患者の調査との不一致があることから虫垂に沈着したプリオン蛋白が疾患特異的でない可能性が考慮されたため、牛海綿状脳症発生前の1970年以前の中樞検体の調査が進行中である。
61	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood. 123(2014)452-453	ステンレス鋼粉末を用いた異常プリオン蛋白(PrP)検出血液検査の検出感度を調査した報告。PrP陽性が想定されない米国赤十字社の血液検体5,000件及び英国健常者集団の血液検体200件をステンレス鋼粉末を用いた血液検査にて検査したところ、陽性検体はなかった。この血液検査の陽性尤度比から真の陽性率は偽陽性率と比べ7,000倍であり、陰性尤度比から真の陰性率は偽陰性率と比べ3倍であることが示された。また、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)感染患者と非感染患者の小規模パネルを盲検的に調査した結果、10例のvCJD患者検体のうち7検体が陽性(検出感度70%)であり、以前の検査と同様であった。種々の限界や不確実性はあるものの、この血液検査はプリオン曝露集団と非曝露集団を比較する有病率試験の正当性を裏付けるには十分な性能を有していると考えられた。
62	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Feb. 9, 2014	ドイツにおける異型クロイツフェルトヤコブ病に関する報告。ドイツのBSE監視システムによって、1頭のBSE例が特定された。このウシは11歳4カ月で殺処分されており、臨床症状は認められなかったが、検査の結果、H型BSE陽性であることが判明した。このウシは食肉流通される前に発見されたため、ヒトの健康に影響はない。疫学調査が実施された結果、このウシの子孫8頭が特定され、うち3頭は既に殺処分され、1頭は死亡、4頭は他の加盟国と取引された。
63	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis. 20(2014)489-490	スウェーデンにおけるブタ連鎖球菌の報告。養豚農家の男性が作務中に手に傷を負ったあと、ブタ連鎖球菌血清型5に感染した。薬剤感受性試験ではすべての抗菌薬に感受性がみられ、毒性関連遺伝子sly、mrp、epfを確認したところ、slyおよびmrpは陽性であったが、epfは陰性であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
64	レンサ球菌感染	J of Clinical Microbiology. 13 Nov 2013	中国におけるStreptococcus halichoeri (S.halichoeri) 感染の報告。2012年10月、中国人男性においてS.halichoeriによる初のヒト感染症例が報告された。S.halichoeriは2004年にアザランにおいて初めて報告されたランスフィールドB群レンサ球菌である。この患者は、1週間前に大型の淡水魚に手で触れていたこと、鮮魚場の魚が入った発砲スチロールの大箱を洗浄していたが、感染源については未確定である。
65	レンサ球菌感染	PLoS ONE. 6(2011)e17604	ベトナムにおけるブタ連鎖球菌感染に関する報告。ベトナムにおいて、ブタ連鎖球菌髄膜炎入院患者101例について、ブタ連鎖球菌髄膜炎を発症していない入院患者303例および地域でマッチングした300例を対照として、症例対照研究を行った結果、危険因子として、「加熱が不十分なブタの血液や腸のような『危険性の高い』料理を食べること」「ブタに関連した仕事」「皮膚に傷を負った状態でブタあるいは豚肉に接触すること」が同定された。
66	炭疽	ProMED-mail 20131112.2052021	米国におけるウシの炭疽の報告。テキサス州獣医当局は、サンアンジェロ南西部の農場においてウシの炭疽が確認されたことを公表した。2013年11月9日までに6頭のウシが炭疽により死亡した。
67	炭疽	ProMED-mail 20140223.2294579	ケニアにおける炭疽の報告。ケニアのNakuruにおいて、死亡したウシ1頭を摂取した後、2例の患者が死亡し、他5例が入院した。患者の容体は安定している。このウシは炭疽により死亡した疑いがある。
68	炭疽	ProMED-mail 20140305.2315919	ケニアにおける炭疽の報告。ケニアのKakamegaにおいて死亡したウシ1頭の皮を剥いで肉を接触した3例の若年男性うち、1例が死亡し2例が重篤な状態となった。このウシは炭疽に感染していた可能性がある。
69	結核	ProMED-mail 20131121.2066039	インドにおける多剤耐性結核 (MDR-TB) の報告。Govandi及びDharaviはMDR-TBの多発地帯と示唆されている。2013年3月以降、Govandi及びDharaviの病院で検査を受けた患者のうちMDR-TBと確認された患者はそれぞれ43%及び35%であった。2010年には53例であったMDR-TB症例は、2013年1月から11月までに2502例と劇的に増加した。
70	ウシ結核	ProMED-mail 20130930.1975157	スイスにおけるウシの結核の報告。2013年9月11日、スイスのAppenzell Outer Rhodesのウシ1頭について屠殺後検査で結核が確認された。同農場の動物10頭が検査で結核陽性と判定され、処分された。確定的な結果ではなかったが、さらに10例の動物が処分予定である。感染源等に関する調査が行われている。
71	ウシ結核	ProMED-mail 20131201.2084248	米国におけるウシの結核の報告。2013年11月26日、ネブラスカ州の農務当局はKnox Countyにおいてウシ1頭の結核感染を確認したことを公表した。同じ群れのウシは隔離され、検査の結果は陰性であった。
72	ハンセン病	ProMED-mail 20131005.1984154	インドにおけるハンセン病に関する報告。Gajurat州では、この数年、ハンセン病患者が増加している。2011-2012年は7500例程度であったのに対して、2012-2013年は9000例以上の感染が確認された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
73	ハンセン病	ProMED-mail 20131222.2130255	インドにおけるハンセン病の報告。Andhra Pradeshにおいてハンセン病が急増しており、2012年～2013年までにハンセン病患者8,285例が報告された。
74	野兔病	http://www.hpa.org.uk/webc/HPAwebFile/HPAweb_C/1287142377500	ロシアにおける野兔病の報告。ハンティ・マンシースクにおいて野兔病の集団感染が発生した。17歳未満の小児156例を含む1000例以上が報告された。夏の間の蚊の増加、小型げっ歯類の増加、住民が予防接種を受けていないことなどが感染拡大の原因であると考えられた。
75	梅毒	www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/2014/05/09	米国における梅毒の罹患率に関する報告。2013年に米国国内で確認された第1期及び第2期梅毒の罹患率は人口10万人あたり5.3例であり、2000年の罹患率(2.1例)の2倍を超えた。2011年以降、男性における罹患率が上昇し、特に2009年～2012年に第1期及び第2期梅毒の男性症例の大部分はMSM(両性愛者及び男性と性交渉があったその他の男性)であった。
76	ヒトアナプラズマ症	Emerg Infect Dis. 20(2014)508-509	ヒトアナプラズマ症(HGA)の血清学的診断法に関する報告。静岡県において、リケッチア様症状を呈した9例の患者を対象にHGAについて間接蛍光抗体法(IFA)をおこなったところ、9例中4例がTHP-1及びHL60細胞で培養したA.phagocytophilumを抗原として用いたIFAによりIgM、IgG抗体が陽性となった。また、ウエスタンブロット法により、THP-1及びHL60細胞で培養したA.phagocytophilumのP44タンパク質抗原に対する特異的反応を確認した。この研究においてTHP-1及びHL60細胞で培養したA.phagocytophilumにおけるP44タンパク質特異抗体の存在が示され、HGAの血清学的診断法の標的タンパク質抗原として有用であることが示唆された。
77	アメリカ・トリパノソーマ症	Emerg Infect Dis. 20(2014)146-148	日本におけるシャーガス病母子感染の報告。2012年10月、日本在住の13歳の少年及びその母親がTrypanosoma cruzi血清学的スクリーニングで抗体陽性であり、巨大結腸症を伴う先天性シャーガス病であると診断された。少年の両親及び祖父母は1992年までボリビアに在住していた日系人である。
78	バベシア症	Transfusion. 54(2014)585-591	赤血球除去白血球の血液バックにBabesia divergensを添加後4℃で31日間保存し、原虫の存在、形態、生存能を調べた結果、保存期間に伴い原虫数は減少し、形態変化した原虫が増加したが、4℃で31日間の保存期間にも生存し、感染するために十分な原虫が存在することが明らかとなった。
79	マラリア	ProMED-mail 20131018.2009008	インドにおけるマラリアの報告。2013年8月までに6700万の検体が検査され、35の州および準州から収集された477,660検体でマラリア感染が確認された。このうち、254,477検体が熱帯マラリアとして特定された。
80	回虫症	Cent Eur J Public Health. 21(2013)224-226	イタリアにおける回虫感染の報告。養豚農家の糞便中からメスとオスの回虫(Ascaris sp.)が発見された。発見された回虫はブタ回虫とヒト回虫のハイブリッド遺伝子型(A.summ/lumbricoides)を示した。患者の農場の複数のブタでA.summ感染が確認され、ブタからの交差感染が感染源である可能性が示唆された。
81	肝包虫症	Parasitol Int. 62(2013)561-563	フランスにおけるワオキツネザル及びヌートリアの肝包虫症に関する報告。2011年4月、フランス国内の動物園において、2歳半のワオキツネザル及び1歳のヌートリアの剖検中に肝臓の嚢胞性病変が見つかり、組織学的な検討の結果、エキノコックスの感染が確認された。感染源は野生のキツネであると考えられた。